

平成30年度 5月 薬事委員会結果報告

1. 新規採用医薬品(切り替え含む)

No	医薬品名	区分	一般名	製薬会社	規格	薬価	薬効	備考
1	ツロブテロールテープ 0.5「EMEC」	後	ツロブテロール	エルドメットエーザイ	0.5mg 1枚	¥22.30	経皮吸収型・気管支拡張剤	規格追加 先発:ホクナリンテープより切替
1	ツロブテロールテープ 1「EMEC」	後			1mg 1枚	¥31.40		
2	ツロブテロールテープ 2「EMEC」	後			2mg 1枚	¥40.70		
3	インドメタシン外用液1%「日医工」60mL	後	インドメタシン	日医工	60mL 1本	¥144.00	経皮鎮痛消炎剤	インテバン外用液1%50mLより切替
1	オキシコンチンTR錠 5mg	先	オキシコンチン	塩野義	5mg 1錠	¥134.70	持続性癌疼痛治療剤	オキシコンチン錠販売中止による切替
2	オキシコンチンTR錠 20mg	先			10mg 1錠	¥468.80		

2. 新規院外採用医薬品(2品目)

No	医薬品名	区分	一般名	製薬会社	規格	薬価	薬効	備考
1	クレメジン速崩錠 500mg	先	球形吸着炭	クレハ=田辺三菱	500mg1錠	¥43.50	慢性腎不全用剤	既登録:クレメジン細粒・カプセル
2	トラマールOD錠 25mg	先	トラマドール	日本新薬	25mg1錠	¥36.50	がん疼痛・慢性疼痛治療剤	

3. 医薬品情報室より 重要な添付文書改訂 : DSU(医薬品安全対策情報)No.268~269(2018.4~5)

医薬品一般名	トルバプタン	213 利尿剤 249 その他のホルモン剤
改訂箇所	改訂内容	
「副作用」の「重大な副作用」一部改訂	「急性肝不全、肝機能障害: AST(GOT)、ALT(GPT)、γ-GTP、Al-P、ビリルビン等の上昇を伴う肝機能障害があらわれ、急性肝不全に至ることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。また、肝機能障害が回復するまでは頻回に血液検査を実施するなど観察を十分に行うこと。」	

限定採用:サムスカ錠7.5mg <院外>採用医薬品:サムスカ錠7.5mg、15mg

医薬品一般名	クロピドグレル硫酸塩	339その他の血液・体液用薬
改訂箇所	改訂内容	
[禁忌] 追記 [相互作用]の「併用禁忌」新設	「セレキシパグを投与中の患者」 「セレキシパグ」	

採用医薬品:プラビックス錠

医薬品一般名	アナグリプチン	396糖尿病用剤
改訂箇所	改訂内容	
[重要な基本的注意] 追記	「急性膵炎があらわれることがあるので、持続的な激しい腹痛、嘔吐等の初期症状があらわれた場合には、速やかに医師の診察を受けるよう患者に指導すること。」	
[副作用]の「重大な副作用」 追記	「急性膵炎: 急性膵炎があらわれることがあるので、観察を十分に行い、持続的な激しい腹痛、嘔吐等の異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。」	
	「類天疱瘡: 類天疱瘡があらわれることがあるので、水疱、びらん等があらわれた場合には、皮膚科医と相談し、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。」	

<院外>採用医薬品:スイニー錠

医薬品一般名	プロポフォール	111全身麻酔剤
改訂箇所	改訂内容	
[禁忌] 削除 [妊婦、産婦、授乳婦等への投与] 一部改訂	「妊産婦」 「妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。(本剤は胎児へ移行するため、新生児の呼吸抑制等があらわれることがある。)」	

採用医薬品:1%プロポフォール注「マルイシ」

医薬品一般名	リナグリプチン	396糖尿病用剤
改訂箇所	改訂内容	
[重要な基本的注意] 追記	「急性膵炎があらわれることがあるので、持続的な激しい腹痛、嘔吐等の初期症状があらわれた場合には、速やかに医師の診察を受けるよう患者に指導すること。」	
[副作用]の「重大な副作用」追記	「急性膵炎：急性膵炎があらわれることがあるので、観察を十分に行い、持続的な激しい腹痛、嘔吐等の異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。」	

採用医薬品:トラゼンタ錠 <院外>採用医薬品:テネリア錠

医薬品一般名	117 精神神経用剤、 239その他の消化器官用薬 アリピプラゾール、オランザピン、クエチアピソールマリン酸塩、クロロプロマジン塩酸塩、 プロクロルペラジンマレイン酸塩、クロロプロマジンフェノールフタリン酸塩、ハロペリドール、 リスペリドン（経口剤）、レボメプロマジンマレイン酸塩	
改訂箇所	改訂内容	
[禁忌] 一部改訂	「アドレナリンを投与中の患者（アドレナリンをアナフィラキシーの救急治療に使用する場合を除く）」	
[相互作用]の「併用禁忌」一部改訂	「アドレナリン（アナフィラキシーの救急治療に使用する場合を除く）」	

採用医薬品:エビリファイ散、セロクエル錠、ウインタミン細粒、ノバミン錠、ハロペリドール細粒、ヒルナミン錠、リスパダール細粒、リスペリドン内用液分包
<院外>採用医薬品:ジブレキサ錠、コントミン糖衣錠、リスパダール錠、リスパダールOD錠

医薬品一般名	245 副腎ホルモン剤 アドレナリン（注射剤）各種疾患もしくは状態に伴う急性低血圧又はショック時の補助治療の効能を有する製剤	
改訂箇所	改訂内容	
[禁忌] 一部改訂	「次の薬剤を投与中の患者:ブチロフェノン系・フェノチアジン系等の抗精神病薬、α遮断薬(ただし、アナフィラキシーショックの救急治療時はこの限りでない。)」	
[相互作用]の「併用禁忌」一部改訂	「抗精神病薬(ブチロフェノン系薬剤、フェノチアジン系薬剤、イミノジベンジル系薬剤、ソテピン、リスペリドン)、α遮断薬(臨床症状・措置方法:本剤の昇圧作用の反転により、低血圧があらわれることがある。アナフィラキシーショックの救急治療時以外には併用しない。)」	

院内採用医薬品:アドレナリン注シリンジ「テルモ」

医薬品一般名	245 副腎ホルモン剤 アドレナリン（注射剤）(蜂毒、食物及び薬物等に起因する反応に対する補助治療の効能を有する製剤)	
改訂箇所	改訂内容	
[禁忌] 一部改訂	「次の薬剤を投与中の患者:ブチロフェノン系・フェノチアジン系等の抗精神病薬、α遮断薬(ただし、アナフィラキシーショックの救急治療時はこの限りでない。)」	
[相互作用]の「併用禁忌」一部改訂	「抗精神病薬(ブチロフェノン系薬剤、フェノチアジン系薬剤、イミノジベンジル系薬剤、ソテピン、リスペリドン)、α遮断薬(臨床症状・措置方法:本剤の昇圧作用の反転により、低血圧があらわれることがある。アナフィラキシーショックの救急治療時以外には併用しない。)」	
[併用注意] 追記	「抗精神病薬(ブチロフェノン系薬剤、フェノチアジン系薬剤、イミノジベンジル系薬剤、ソテピン、リスペリドン)、α遮断薬」	

採用医薬品:エピペン注射液

医薬品一般名	オマリグリプチン、トレラグリプチンコハク酸塩	396糖尿病用
改訂箇所	改訂内容	
副作用]の「重大な副作用」追記	「類天疱瘡:類天疱瘡があらわれることがあるので、水疱、びらん等があらわれた場合には、皮膚科医と相談し、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。」	

<院外>採用医薬品:マリゼブ錠、ザファテック錠

医薬品一般名	トスフロキサシントシル酸塩水和物（経口剤）	624合成抗菌剤
改訂箇所	改訂内容	
[副作用]の「重大な副作用」一部改訂	「急性腎障害、間質性腎炎、腎性尿崩症: 急性腎障害、間質性腎炎、腎性尿崩症等の重篤な腎障害があらわれることがあるので、定期的に検査を行うなど観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。」	

<院外>採用医薬品:オゼックス錠、オゼックス細粒小児用